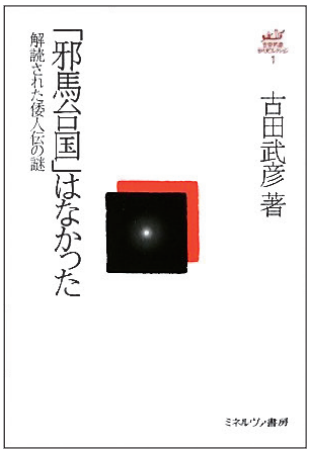
■私の役に立った本

中條善樹のおすすめ
京都大学大学院工学研究科 教授



分　野：人文・社会科学
書籍名：「邪馬台国」はなかった
著者名：古田武彦
出版社：朝日新聞社
出版年：1971年
価　格：絶版（現在はミネルヴァ書房から2,800円（税別））

高校の頃から日本古代史と化学が大好きだった。日本古代史のいろいろな本をむさぼり読み、諸説紛々の「邪馬台国」について、自分でもその論争に入り込んでいる感覚だった。この頃に自分の進路を考えていて、かなり日本古代史の研究に惹かれるものがあったが、迷った末に化学の道を選んだ。この古田武彦の代表3部作、“「邪馬台国」はなかった”をはじめ“失われた九州王朝”“盗まれた神話”、に出会ったのは学部生のときだと記憶している。当時（今でもそうだと思うが）の主流の説を真っ向から否定するものであった。どちらかというと論文のような本であったが、学会のアウトローともいうべき学者が、自説を曲げず繰り出す潔さのようなものさえ感じた。

大学院に進むことを決めてから、趣味で日本古代史を研究する暇もなくなり、現在まで封印してしまっている。ただ、この本から学者としての研究心、探求心、真剣さ、真摯さを学んだ気がする。そして何と言っても、古田武彦（故人）の、原著論文（魏書東夷伝倭人条、いわゆる魏志倭人伝）を何の先入観もなく素直に理解しようとする姿勢に感銘を受けた。自分が化学者になってから、恣意的にならずに客観的に物事を観察する、この姿勢をもち続けることの難しさと大切さを痛感し、彼のすごさを再認識した。分野は全く異なるが、自分が化学者になるためにも、なってからも、そして後続の化学者を育てるためにも、強く影響を受けた本であることは間違いない。

■私の役に立った本

三輪洋平のおすすめ
岐阜大学工学部 准教授

分　野：高分子物性
書籍名：電子スピン共鳴ー素材のミクロキャラクタリゼーションー
著者名：大矢博昭・山内　淳
出版社：講談社サイエンティフィク
出版年：1989年（初版）
価　格：5,800円

多くの人にとって役立つ本かと言われれば、正直「？」です。しかし、私にとっては、これほど役に立った本は、ないという一冊です。皆さんは電子スピン共鳴（ESR）という装置をご存知でしょうか？　NMRの兄弟分で、不対電子を観測対象としています。しかし、独特なスペクトル形状のために、すこし敬遠されがちな装置だと思います。

私は、たまたま卒業研究でESRによって高分子の研究をしている先生に師事したために、このESRと出会いました。と言いましても、その研究室が第一希望でしたので、たまたまではないのですが……。まあ、とにかくESRと付き合うことになりました。当時、研究室のゼミでは、ESRの原理が詳しく解説された教科書を使用していました。しかし、悲しいかな、当時の私にはさっぱりでした。先生に懇切丁寧に解説をしていただいても、馬の耳に念仏という有様です。そんなときに先輩に貸していただいたのがこの本でした。

この本では、ESRで何がわかるのか？　また、どうやって測定するのか？　に重点が置かれており、入門者が概要をつかむのには最適な本だと思います。また、初版から25年以上が経過しているために、最新技術に関してはほかに譲らざるを得ないのですが、それでも、これほどESRの測定手法が網羅されている一冊はほかにないと思います。

もしかしたら皆さんも、ひょんなことからESRについて勉強する機会があるかもしれません。そんなときには、ぜひこの一冊をお勧めします。

©2016 The Society of Polymer Science, Japan